

あったか  な 人と心が きづくまち

<伊尾木>

伊尾木

伊尾木地区は、市の中心部から西に位置し、シダの茂る天然の洞窟である伊尾木洞があります。

その近くには、公民館や障害者施設が建ち、寅さん地蔵、ごめん・なはり線伊尾木駅、コンビニや商店もあり活気がある地域です。

伊尾木公民館、伊尾木地区社協を中心に、地域の支え合い活動や見守り活動が行われています。

また、地区の3大行事（地区民運動会・芸能祭・産業文化祭）は、多くの住民でにぎわいます。



★ 伊尾木地区の人口・地域福祉資源の概況 ★

世帯数	人口	65歳以上				介護認定者	障害者	子ども
		高齢者数	高齢化率	独居	世帯			
578 世帯	1,275 人	449 人	35.2 %	68 世帯	56 世帯	90 人	118 人	117 人

社会資源	主な公共施設	公共施設等	伊尾木公民館 広域ゴミ処理施設 (メルトセンター) 伊尾木駐在所	集会所	岡東組 西組 中組 伊尾木中村 宮田岡
		学校	伊尾木小学校		
		保育所等	伊尾木保育所		
	福祉・保健・医療・施設等	(障害) 障害福祉サービス事業所ホップあき			

★ 伊尾木地区のいいところ ★

- 民生児童委員をはじめ、やりたいと思ったことに協力してくれる人材がいます。
- 伊尾木洞窟のシダ群落とハウスデコポンが自慢です。
- 伊尾木小学校は体育館が大きく、教室からは水平線が見えます。
- 地域の人が「篠笛（しのぶえ）」「手づくり太鼓」「銭太鼓（ぜにだいこ）」「けん玉」を教えてくれて、学校と地域の交流があります。
- 高齢者同士のふれあいがあり、日頃から隣近所を大切にしています。
- 伊尾木地区は、“あいさつが100%できる地区”を目標に取り組んでいます。

★ 伊尾木地区の気になること ★



であい～拠点～

- 公民館での行事は移動手段がないので、遠くの部落からは参加しにくい。
- 後継者がいない。
- リーダーになってくれる人がいない。
- 若者の集う場所がない。
- 集会所の設備が古い（またはない）。

- ボランティアを育成したい。
- 放課後子ども教室の内容を魅力あるものにしたい。
- 親が地域での活動を子どもたちに見せる機会を作ることが、活動を引き継いでいくことにつながる。
- 活力ある若者に目を向けた活動をしていくことが大切。

ふれあい～共生～

- 乳幼児とのかかわりが少ない。
- 地域に子どもが減ったことで高齢者との交流が少なくなった。
- 地区の行事への参加が少なくなった。
- 出て来れない人への声かけなどの工夫がある。
- 現役世代は、日々の生活のことではしゃいで、地域に目が向いていない。

- 参加者が一緒になってできる行事をしたい。
- みんなが参加できるPTAを作りたい。
- 店がなく、移動手段もないので、元気バスを利用している。（なくなると困る。）
- 3大行事（地区民運動会、芸能祭、文化・産業祭）は、これからもずっと続けていきたい。

かたりあい～協働～

- 学校や地域の団体の活動があまり知られていない。
- 障害者の施設の情報が少ない。
- 公民館の利用のマナーが悪いときがある。

- PTAとのつながりをもっと深めたい。
- 地域の各団体の会長が集まる機会があればいい。
- 自分たちの活動を地域の人に知ってもらいたい。
- ミニデイを通して交通安全教室や生きがいづくりなど住民に発信している。

ささえあい～共助～

- 今の避難経路で大丈夫か不安に思う。
- 自主防災組織はあるけれど、昔のような絆づくりが課題。
- 国道を走る車のスピードが速くて怖い。（信号無視もあって危険。）

- 東日本大震災をきっかけに防災に対する意識が変わった。
- 防災について考えることをきっかけに地域につながりを持たせたい。

★ 伊尾木地区で取り組んでいくこと ★



1. 出会いのための人づくり・場所づくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
ボランティア養成講座・研修会の実施	ミニデイ活動のレク担当者の養成を地区単位で行う。 （養成講座の開催）	地区内で活動の輪が広がることを目指す。	地区内のボランティアの人材バンク登録に取り組む。

2. 認め合い・理解し合える意識づくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
多世代交流活動の実施	PTA・子ども会活動・3大行事（運動会・芸能祭・産業文化祭）の活性化 若い世代の地域活動への関わりを増やす取り組みを検討する。 （子どもを中心に保護者とともに活動する。）		長い視点で現役世代の意識改革づくりに取り組む。

3. 暮らしを支える福祉のネットワークづくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
地域性に応じた地区社協機能の強化（地区社協活動の活性化）	高齢者中心の活動から、障害者・子どもなど活動の参画者を増やす。	公民館・地区社協を中心とした福祉（団体や事業所）のネットワークづくり。	

4. 地域で安心・安全に暮らしていくための体制づくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
緊急時の役割分担と連携体制の構築	防災について考える機会を持つことをきっかけに、地域の絆づくりに取り組む。 （学習など。）	集会所単位での見守り体制を検討する。 （避難訓練や避難路の確保など）	「岡」地域の取り組みを参考とした地域の見守りネットワークづくり。